

禅美術では、龍や虎は涅槃を達成した仏教の修行者を表すことが多い。もともとは、1620年から1623年の間に画家の佐久間修理（1581-1658）と長谷川等胤（生没不明）によって制作された3つの木製の扉が本堂の北、南、東の側に設置されていた。この扉はそのうちの一つの複製で、1997年に作られた。